

は右の歌隨分よき歌に候得共、外山のさくらといたしたるにて其方歌と存候。上の句に入相のかねに散やせんと申かけ候へば、いはずして花と知れ申候。然るに下旬に櫻と申事いらぬ儀に候。總て連歌師の歌は、連歌のくせ出候てことはり過申候。なぜに外山の梢と不仕候哉と被仰候由。兼壽も心服仕候て罷歸候。此兼壽妻子も無之、妾有之候。一日寢所立まはし、内には鎖おろしふせり申候。翌朝日高け候迄音不仕候故、妾不審に存候て寢所へ罷越候て、戸をあけ候得共内よりしまりいたし候故、打やぶり候て見申候へば、床枕など其儘有之ながら兼壽は見え不申候。外へ出可申處も無之候。其段了山御聞候て、殊の外御残念がりにて候。其節美濃一向寺の僧一寺の住持に候處、毛頭も兼壽と替儀無之、いづかたへ參り候哉見え不申候。其月日も同じ時分の儀にて、後日に一向宗に候故、東本願寺末寺にて東本願寺へ申來候故、とうたい院殿より了山へ御物語被成候由。其後二三年過候て右の僧元の寺へ罷歸候。兩親妻子など驚候て晝夜戀慕候處に、いづ方へ參候哉と申候へば、右の僧殊の外飢申候間食事仕度旨申候故、食をたべさせ候へば限もなく被下

候。親共とめ候得共聞不申候。扱其後に申候は、必氣遣仕間敷候。只今の處中々爰もとなどに罷在候よりはおもしろくくらし候。餘り各なげき被申候故不便の儀に候間、ちよと罷越逢候様に師の御方被申候て參申候。いづくと申儀を各へ申聞せ候事は不罷成候。とかく我等只今の住居おもしろき儀にて、ゆる／＼くらし候間御なげき有間敷と申候。自今二年一度宛は必參候て逢可申旨申候て、とめ候得共袂引きり又何方へ哉覽うせ申候。奇異の事とて又此段とうたい院殿へ、美濃より申來候て了山へ御物語候處、了山御聞候て、左候はゞ重て參候節書狀一通言傳申度候間、美濃へ被遣置、右の僧參次第相渡給候様にとの儀にて、書狀一通御自筆にて御調候。其趣は兼壽事連歌の達人、此道中興の望有之ものに候間、早速此方へ御返し頼入候。大天狗御房參、了山。と申文にて御座候。然共右二年に一度と申候へども、七年迄相待候處不罷越候。終に見え不申候。其内了山御死去に候ゆる、右の書狀只今本願寺の寶物に入有之由に候。

一、井伊候油斷大敵の教訓

永井信齋信濃守と申時、段々御取立にて被召仕候時分、井

伊故掃部頭殿へ被參被申候は、私事御厚恩にて結構被召仕候。それに付御奉公の筋に、何とぞ平生心得にも罷成儀候はゞ被仰聞被下候様仕度候。其元の儀は兼て格別に存候故、最初より御一言をも承度存候得共、何とやらん詔の様にも相聞候故、只今迄延引仕候。御老人の儀と申、御先代より御舊功の事に候間、御一言候て平生の嗜に仕度旨申され候へば、掃部頭殿感被申、奇特千萬成事にて候。いかさま久々御奉公仕候故、平生心付候儀も有之候間可申入候。左候はゞ卒爾には不罷成候間、精進被致候て某の日に可被參候。則是にて精進おち被申様可被致旨にて、歸被申候。其日に罷成麻上下にて參候處、掃部頭殿も麻上下にて出被申、此方へとて奥の間へ同道にて、さて被申候は、油斷大敵と申事人の申儀に候。覺被申候哉と尋被申候故、永井殿成程承候由被申候へば、それが御自分への傳授にて候。此一言を二六時中失念被致まじきと被申候て、其後鬨斗鮑など出候て料理振舞返し被申候由に候。掃部頭殿不學の人に候得共、大公望の丹書を武王へ被傳候と同意に御座候。三日齋戒して丹書を授られ、扱敬勝意則吉の語意と右油斷大敵の

語意と、雅俗淺深は有之候得共一理に御座候。

一、大猷院米直段等につき御尋

是も永井氏人名は失念。大猷院様御時御近習にて候。久々頼被申、餘り久敷儀に候故、おして出被申候處に御覽被成候て、其方顔色いまだ悪敷候。中々勤申事成申間敷候間、先引こみ候て遠慮なく緩々養生いたし候へと、御直々上意候。堀田加賀守殿御側に居被申、難有上意にて候。早速罷歸養生仕候へと被申歸宅いたし、扱五十日も過候て此度はすぎと本復にて、出被申候へば、御側へ御呼被成、なにと唯今米直段は何程に賣り候哉と、御尋被成候へば、しかと不存旨申候。いわしはなにほど仕候哉と御尋被成候處、又不存旨申候。豆腐のくづはなに程仕候哉と御尋被成候處、又不存と申候。其時御氣色悪敷罷成、不心懸成事にて候。かやうの事は、老中などには尋ねられぬ事に候。其方共近習心安者に尋候て、此方心得にする事にて候。然ばかやうの事兼て其方共能承置候て、相尋申時分、具に申上候様に兼て心得可申儀に候處、油斷千萬成事にて候。夫も勤仕に無暇候へば尤にて候。此間百日計も引こみ罷在內、幸かやう